SAIKAI

ペレットストーブ 設置工事マニュアル

2019_9

- 全機種共通 -

もくじ

P
1. 安全のために必ずお守りください…… 1
2. 設置場所の確認(室外)…… 2~4
3. 給排気管の規定 …… 5
4. 排気出口の離隔距離…… 6
5. 設置場所の確認(室内)…… 7
6. 本体給排気管取付…… 8~9
7. 本体設置 給排気管取付手順……10~13
8. 給排気管の芯寸法 ……14
9. 設置完了確認 ……15

設置工事の前に、この設置工事マニュアルをお読みのうえ正しく据え付けてください。

※設置工事上の責任は弊社では負いかねます。
※本マニュアルで禁止されている設置工事による故障や事故は、保証対象となりません。

この設置工事マニュアルおよび製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

⚠記号は注意を促す内容があることを告げるものです。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

設置・移設工事は必ず弊社指定販売店が行ってください。

設置・移設工事は弊社指定の販売店が行い、お客様ご自身では行わないでください。
弊社指定販売店以外の工事による不備があった場合、火災や事故の原因となります。

設置工事部品は必ず付属部品および弊社指定の部品を使用してください。

指定部品以外の部品を使用された場合、火災や事故の原因となります。

改造使用の禁止

改造して使用しないでください。また、ストーブや給排気管には床暖房用の熱交換器などを取り付けたり、他の目的で使用しないでください。火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。
※設置工事マニュアルに基づかない設置工事による事故、また、他の機器との接続や改造による事故は弊社では一切の責任は負いません。

日本の森を育てたい
SAIKAI
株式会社 さいかい産業

1.安全のために必ずお守りください

ストーブの設置には、建築基準法や電気設備に関する技術基準、消防法に基づく火災予防条例に定められた設置をする必要があります。
各地区の火災予防条例に従い、法令の規定を厳守してください。

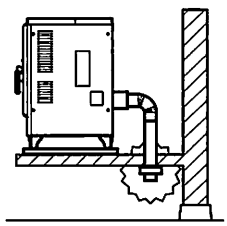
⚠警告(WARNING)・・・据え付け時

⃠次の場所では据え付けできません。
火災や予想しない事故の原因になります。

- 水平でない場所、不安定な場所
- 不安定な物をのせた棚などの下
- 可燃ガスの発生する場所又は溜まる場所
- 燃焼に必要な空気を取り入れる空気取入口のない場所、または換気のできない場所
- 付近に燃えやすいものがある場所
- 階段、通路、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- マントルピース内
- 乾燥室、温室、飼育室など人のいない場所

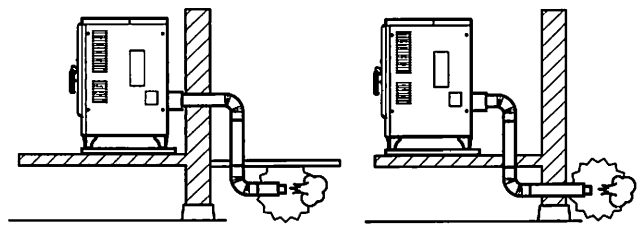
⃠屋内給排気禁止

必ず屋外に排気してください。
排ガスが室内に充満すると危険です。
※二重管内側の排気管だけを屋外に出す設置も厳禁です。

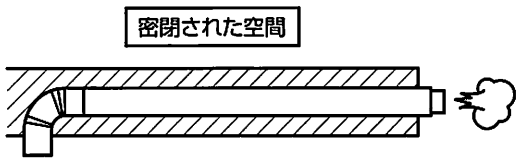


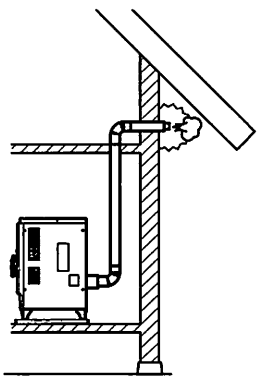
⃠下出し禁止

適正な給排気ができず燃焼状態に異常をきたすので給排気出口を床下へ設けることは厳禁です。



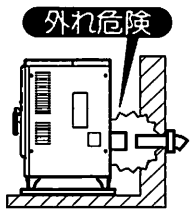
⃠天井裏など給排気管を確認できない場所への設置禁止





⃠給排気管外れ危険

給排気(管・ホース)を確実に接続し、しっかりと固定してください。
風、振動、衝撃などで外れたりすると、運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



⃠給排気管先端閉そく危険

積雪が多い時に給排気出口のまわりが雪でふさがれない場所に設置してください。
また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



⃠改造使用の禁止

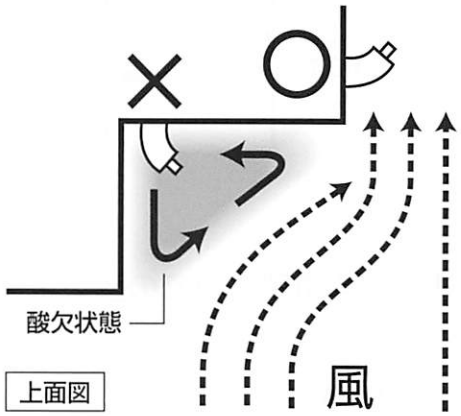
改造して使用しないでください。また、ストーブや給排気管には床暖房用の熱交換器などを取り付けたり、他の目的で使用しないでください。火災や排ガスが室内にもれる原因となり危険です。
※設置工事マニュアルに基づかない設置工事による事故、また、他の機器との接続や改造による事故は弊社では一切の責任は負いません。

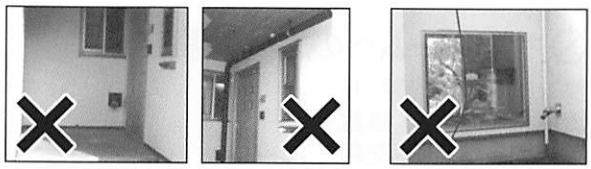
2. 設置場所の確認（室外）

このような場所に設置、排気を出すと、給排気がスムーズに行われずショートサイクルや酸欠による燃焼不良や、火災・事故につながる危険がありますので設置場所、排気出口には十分に気をつけて設置を行ってください。

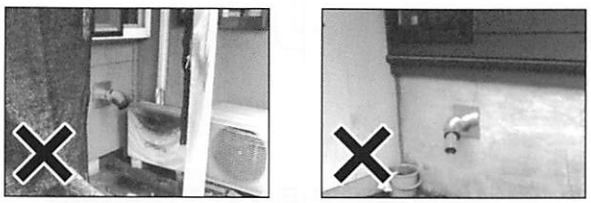
⚠ 入り角となっている場所

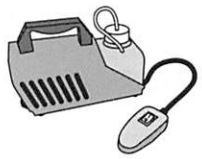
×の場所では風が通らず、酸素欠乏状態となる場合があります。
○の場所に給排気出口を設けるようにしてください。





やむを得ず右のように配管を引き回したが、メンテナンスが大変である。

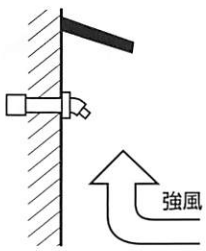




【参考】
煙発生器を使用すると、風の流れが視覚で確認でき、わかりやすくなります。

⚠ 強風が吹きつける面

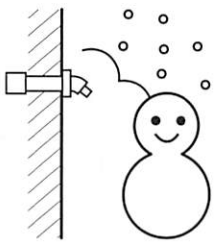
特に下から強風が吹きつける面では、排気が阻害される場合があります。



⚠ 雪の積もる場所

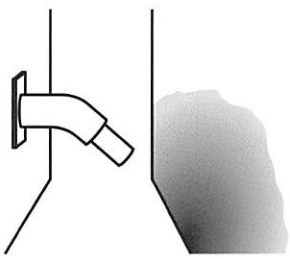
給排気出口の周りに雪が積もる場所では、給排気を阻害し、不完全燃焼や異常過熱を起こす場合があります。周辺の構築物により、積雪の状態が変わる場合もありますので、ご注意ください。

「雪囲い」が給排気出口からの離隔を確保されているかご注意ください。



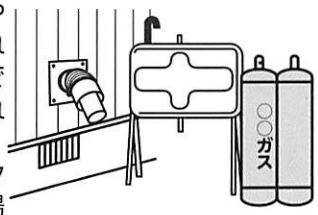
⚠ 隣家の塀が接近している場所

排気出口が隣家の塀や外壁に接近していると排気により汚れるおそれがあります。



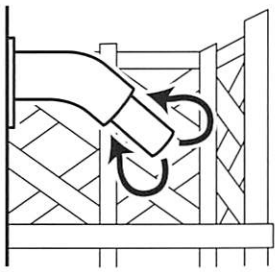
⃠ ガスボンベ、灯油タンクが付近に設置してある場所

排気出口の近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。火災のおそれがあります。
ガスボンベや灯油タンクが排気出口周辺にある場合は各市町村の火災予防条例に従ってください。



⃠ 囲いの中への排気

ベランダやデッキに設置されたラティスの柵であっても、ショートサイクルをおこす場合があります。

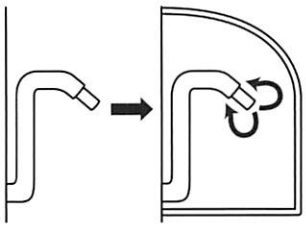


2. 設置場所の確認（室外）

下図のような環境の変化で、黒煙が出る、ススで壁が汚れる、といった燃焼状態の変化があった場合は、弊社までご相談ください。

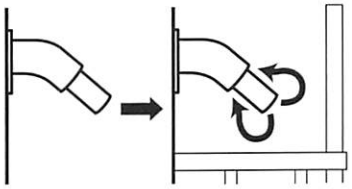
⃠ サンルームへの給排気禁止

サンルームなど空気が流れない場所へ排気を出すと、給排気を阻害し、不完全燃焼や異常過熱をおこす場合があります。



⃠ ウッドデッキが給排気出口付近にある

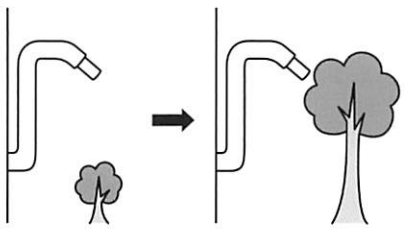
給排気出口にウッドデッキがあるとショートサイクルによる燃焼不良や排気熱による低温発火をおこす危険があります。



⚠ 塀や生け垣等で囲まれている場所

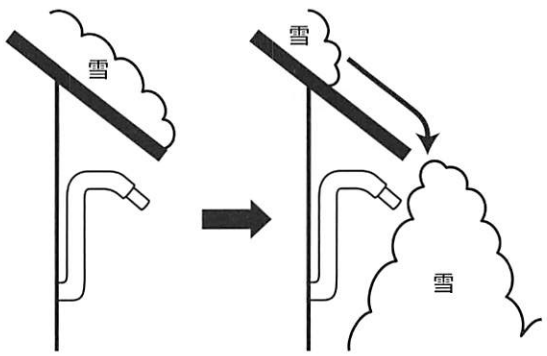
塀や生け垣等が、給排気出口に接近していると、離隔不足で火災の原因になったり、排気が阻害され、不完全燃焼や異常過熱をおこす場合があります。

庭木等は年数を経て、大きく成長して阻害要因になる可能性もあります。

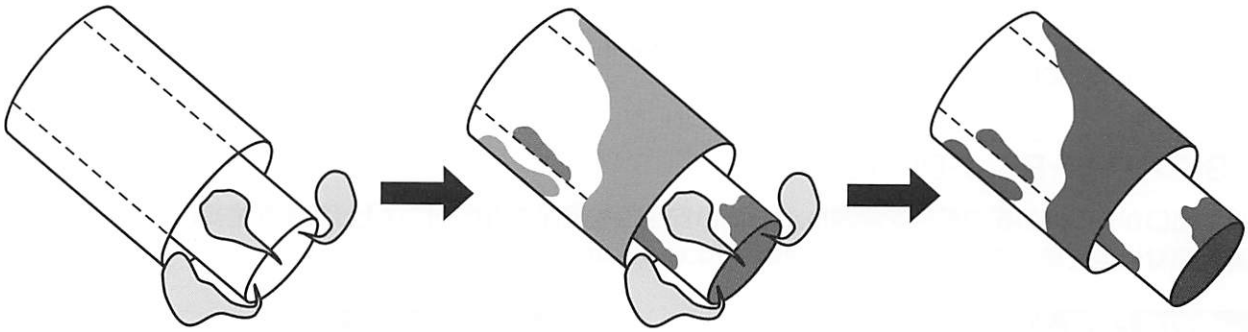


⃠ 落雪による閉鎖空間での酸欠

給排気出口の周りに積雪がなくても、落雪により閉鎖空間ができて新鮮な空気が入らず、酸素欠乏状態となる場合があります。



ショートサイクルとは?

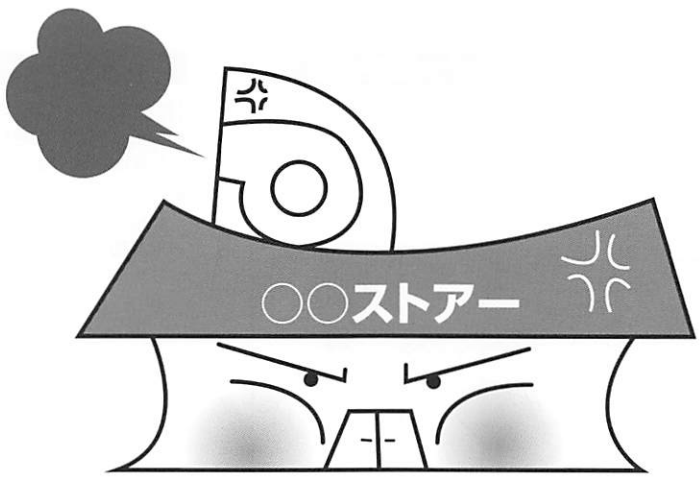


逆風や給排気出口の環境不良により、排気口から出た排気を、そのまま給気してしまうことを「ショートサイクル」と言います。
ショートサイクルが起こると新鮮な空気が給気されないため、燃焼状態が悪化します。

⃠ 負圧(減圧)のかかる場所への設置

大型の換気扇が稼働している飲食店や火葬場等、負圧(減圧)のかかる場所へ設置されると、給排気のバランスが崩れ、排気がスムーズに行われず、内部が過熱したり、排気が燃料タンク内に侵入する危険があります。

●換気扇(排気)に見合った通風(吸気)が確保されているか確認してください。
※「ドアが外に向かって開きにくい」「ドアがバタンと閉まる」等の状況は負圧(減圧)がかかっている可能性があります。



3. 給排気管の規定

⚠ 給排気管の長さは2曲(90°) 3mまで

ペレットストーブは、自然ドラフト(排気上昇)を使う薪ストーブと違い、排気ファンで給排気を行います。
そのため、過度に長かったり、曲がりの多い給排気管を使うと給排気不良を起こし、不完全燃焼や火災の原因にもなります。

・90°の曲り部は2ヶ所まで(角置き用および最後の45°エルボは含みません)
・長さは3mまでにしてください。

SSシリーズ・RS-4・DK-15

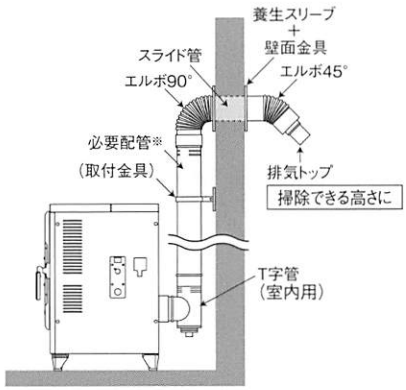
排気出口からの火の粉の飛散を軽減し、より高い安全性を確保するために立上げ設置を推奨しております。
配管部材は全て黒塗装となります。 ※排気トップはステンレスのみになります。

室内立上設置

取付金具は別売り

基本セット
＋
T字管(室内用)
必要配管※
エルボ90°

※ 立ち上がり部分の配管は高さに応じて直管またはスライド管をお選びください。

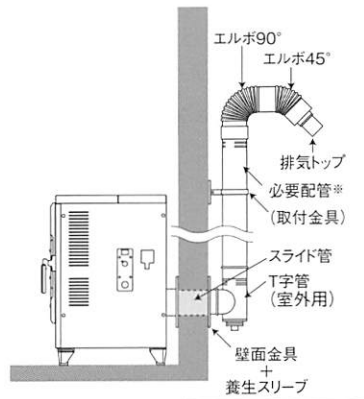


室外立上設置

取付金具は別売り

基本セット
＋
T字管(室外用)
必要配管※
エルボ90°

※ 立ち上がり部分の配管は高さに応じて直管またはスライド管をお選びください。



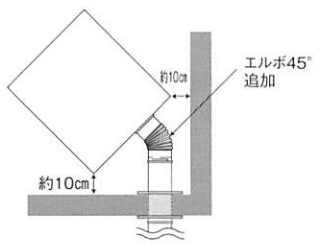
室外用T字管は底部外周が給気口になっています。

コーナー設置上面

室外立上げの場合は「エルボ45°」の追加が必要になります。

● エルボ45°
反対向きも同じ。

室内立上設置の場合は不要



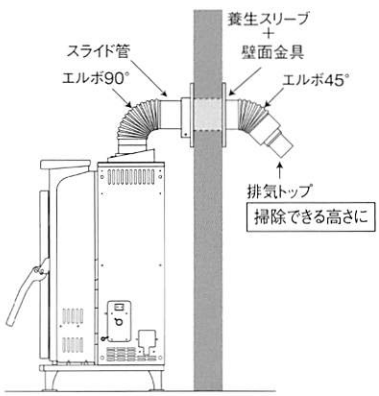
基本セット 内訳

- 壁面金具
- 養生スリーブ
- スライド管400
- エルボ45°
- 排気トップ

RS-mini

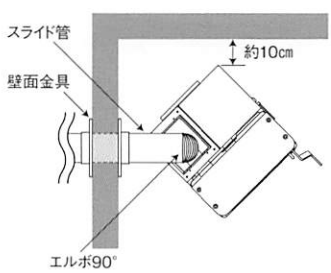
標準設置

【基本セット】+エルボ90°



左出しコーナー設置 上面

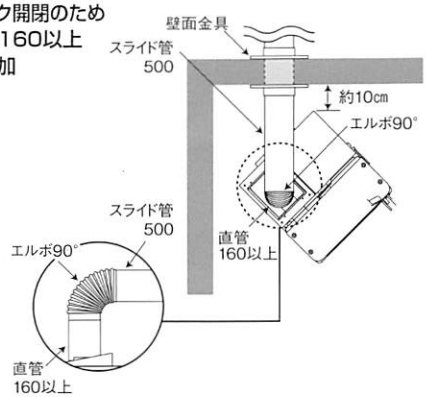
【基本セット】+エルボ90°



※立上設置の場合は、直管またはスライド管を追加

右出しコーナー設置 上面

【基本セット】+エルボ90°
● スライド管400を500へ変更
※壁厚によって異なります。
● タンク開閉のため直管160以上を追加



4.排気出口の離隔距離

⚠火災予防

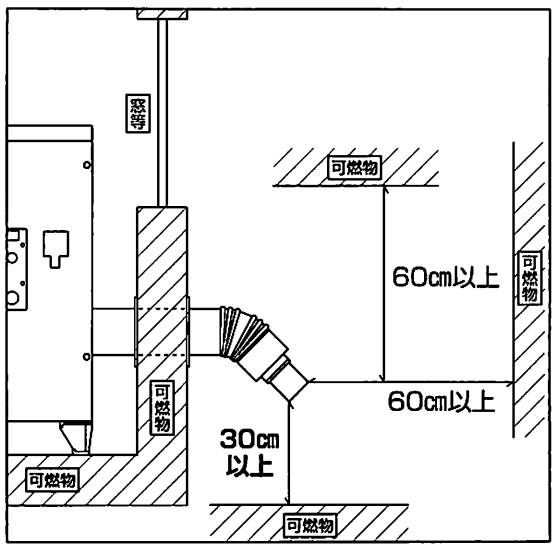
❶ 排気出口から可燃物との間は図の通り離してください。

※排気出口からは200℃の排気ガスが排出されます。

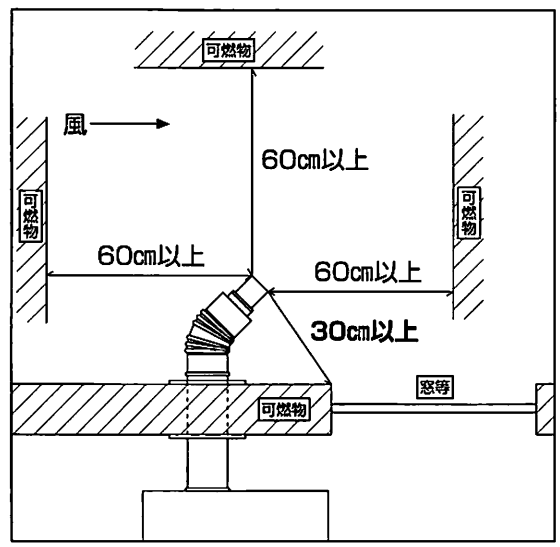
❷ 排気出口は45°程度振って、風下に向けてください。

※排気出口が風上に向いていると、排気を阻害し、不完全燃焼を起こしたり、
異常過熱を起こす場合があります。
※排気トップは上に向けないでください。

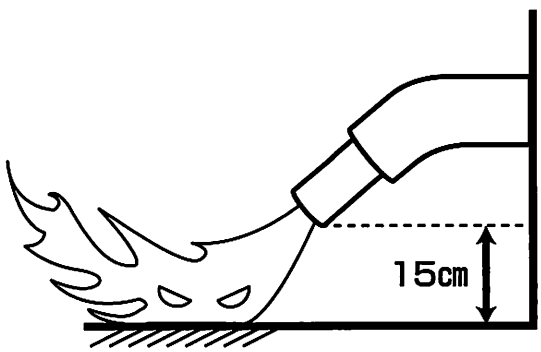
タテ方向



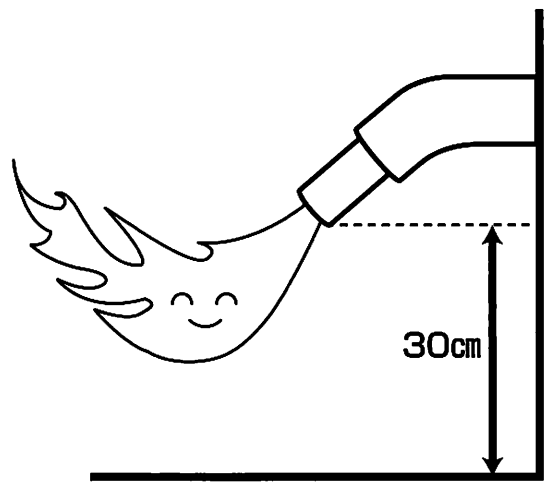
ヨコ方向



●塀や囲いに注意してください。



床面までの距離を十分に取らないと、
床を直接熱してしまいます。
デッキ等の場合、火災につながります。



床面までの距離を十分に取ると、熱は
カーブを描いて上に上がります。
床面は安全です。

5. 設置場所の確認（室内）

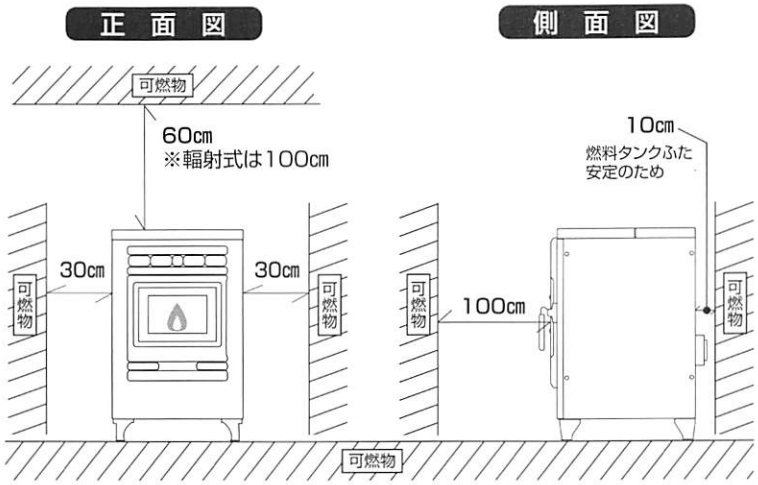
① 室内の離隔距離　⚠火災予防

SSシリーズ・RSシリーズ

ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は図のようにしてください。

●可燃物との距離は図に示す寸法以上離して設置してください。
●壁面との距離は保守・点検を行うためにも必要です。

※図の離隔距離は自社基準（火災予防条例+動線確保のため）です。



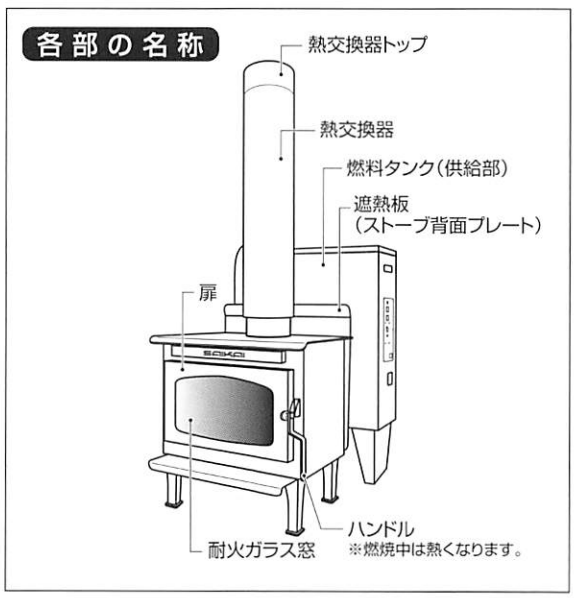
DK-15

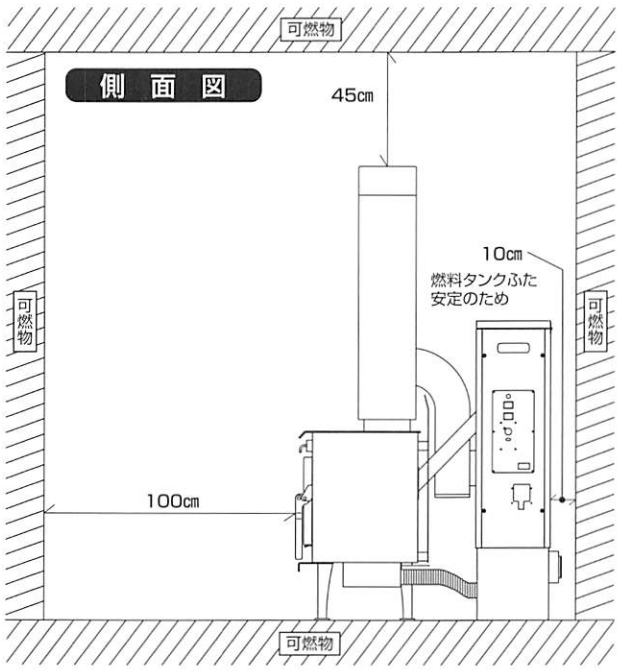
❶本体底面は熱くなりますので、消防法に基づいた耐火炉台の施工が必要です。
❷ストーブから周囲の可燃物までの離隔は薪ストーブの基準に準じてください。
※詳しくはお問い合わせください。

ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は図のようにしてください。

●エントツの位置や構造に関する基準（炉から1.8m以内のエントツは45cm以上離すこと）

※図の離隔距離は自社基準（火災予防条例+動線確保のため）です。



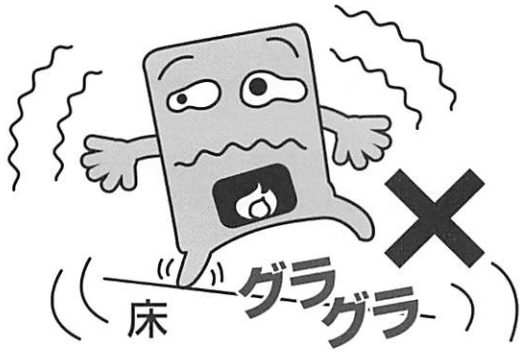


② 本体設置場所の床の確認

水平な床かどうか、不安定な床ではないかを確認してください。

⚠揺れやすい床への設置

揺れやすい床へストーブ本体を設置してしまうと、振動により感震自動消火装置（燃料停止）が頻繁に作動してしまうおそれがあります。
場合によっては床の補強が必要です。



6.本体給排気管取付

⚠ **設置工事の際は必ず手袋・マスク・保護メガネを着用してください。**

⚠ **高気密住宅に設置する場合、さいかい産業で指定する工法はございません。**
高気密保証を行なっている住宅メーカーや工務店に直接ご相談ください。

【開口前準備】

❶ 付属品が全て入っているか、梱包内容を確認してください。

❷ 本体・部品に損傷がないか、確認してください。

❸ ペレットストーブの位置を決め、仮置きします。

1)温風の吹き出し方向を考慮して、位置を決めます。
2)ストーブから周囲との離隔距離を再確認してください。 (P7)
3)ステンレス炉台(別売)を敷く場合は、先に炉台を敷きます。
4)ストーブ脚の裏に床傷防止用のフェルト(付属)を貼り付けて、仮置きします。
5)位置が決まったら、工事作業に支障が無い場所へ動かします。

❹ 排気出口を再確認します。

1)排気出口から周囲の可燃物までの離隔距離を確認してください。 (P6)

❺ 壁を貫通する穴位置を決めます。

1)貫通部に筋交いや間柱及び電気配線、ガス管、水道管が無いことを確認してください。
※図面や聞き取り調査、間柱チェッカー等で確認してください。
2)壁にメタルラス張り、ワイヤーラス張り、または金属板張りをしてある場所に給排気管を通す場合は、
それらの金属部に接しないように電気的絶縁をしてください。

【開口手順】…P9参照

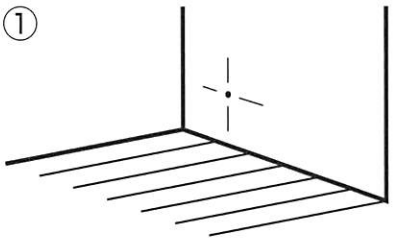
壁に貫通穴を空けます。(150㎜Φまたは150㎜角)

1)周囲を汚さないよう、室内・室外に養生シート等の処置をします。
2)ストーブの給排気管の芯寸法(P14)を確認し、室内側の壁に印を付けます。
3)ドリルで、外側まで下穴を空けます。
4)ホルソー150㎜Φで室内側の壁を抜きます。
※150㎜角の切り取りでも可
5)壁内部の配線や配管が無いことを確認し、断熱材等を周囲に押し込むか、部分的に撤去します。
6)同様に、外側の壁を抜きます。
7)貫通部の壁の両側から養生スリーブ(大:長さ150㎜・小:長さ100㎜)をはめこみます。

6.本体給排気管取付

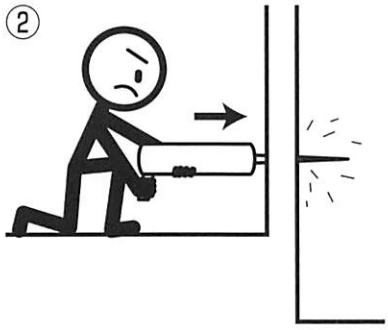
ホルソーを使っての穴開けについて

①



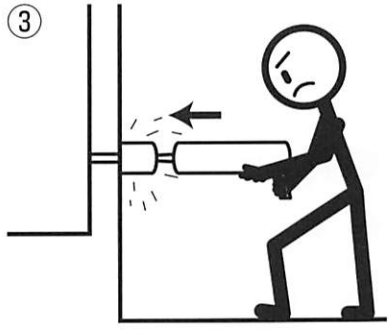
壁に給排気管を通す穴を開けるための位置を出します。

②



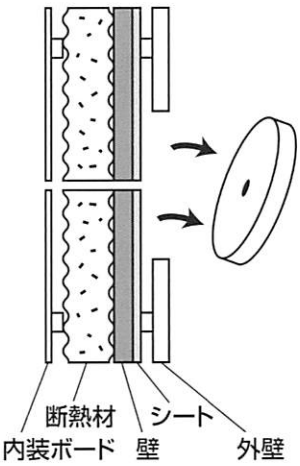
室内側から、外にドリルを貫通させます。
※ウール系断熱材など巻きこみに注意してください。

③

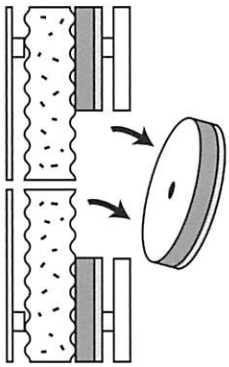


外壁を1枚ずつ剥ぐように穴を開けていきます。

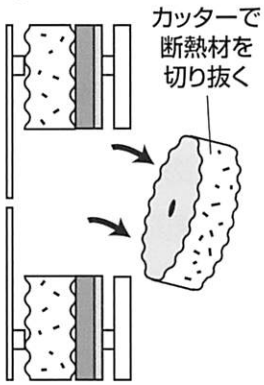
③-1



③-2

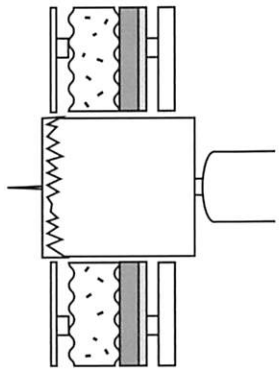


③-3



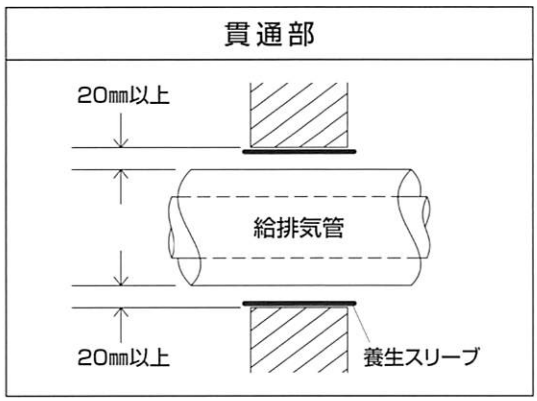
※柱や筋交い、電線等を切らないように事前に確認してください。

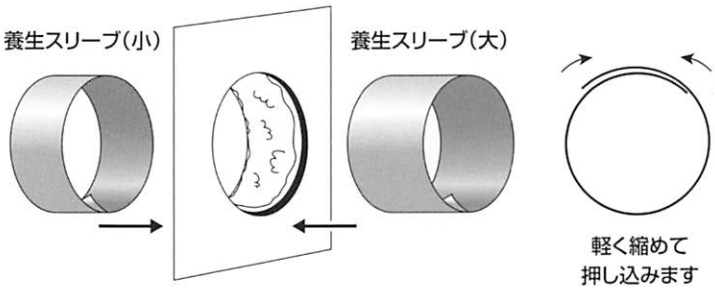
③-4



外から室内の内装ボードをホルソーで穴開けします。

【開口処理】

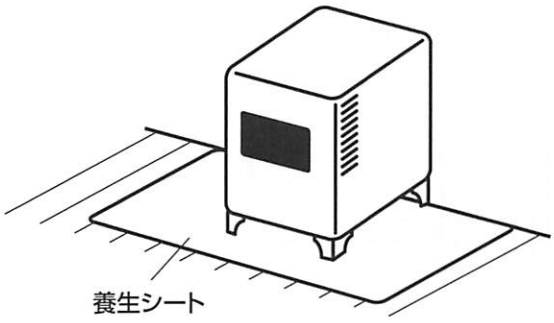




※養生スリーブは防火遮熱性能目的のスリーブではありません。
仕上がりを美しくするための目的のスリーブですのでご注意ください。

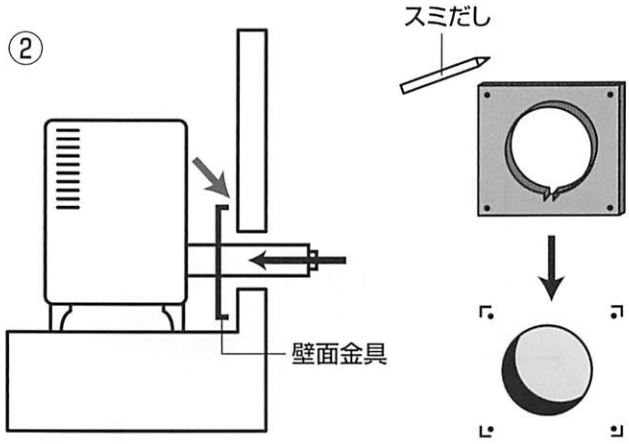
7.本体設置 給排気管取付手順

① 仮置き



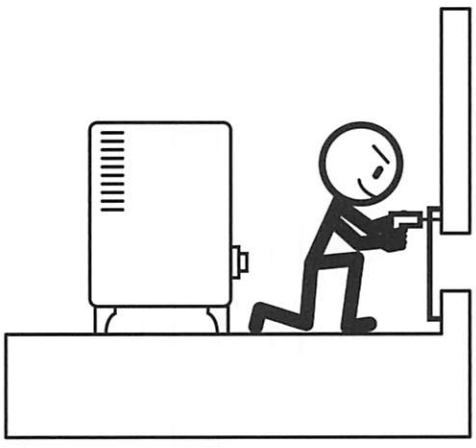
養生シートを先に敷いてからストーブ本体を仮置きします。

②



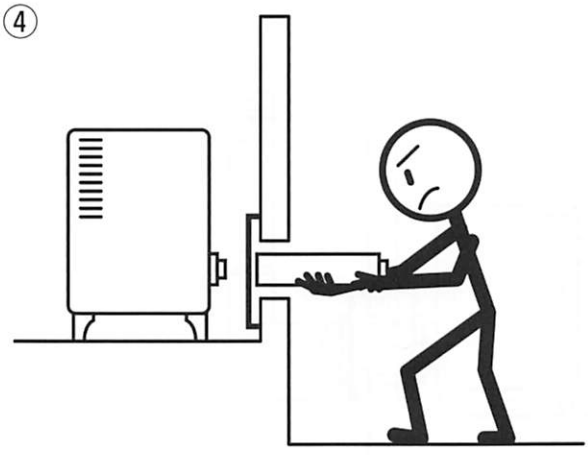
配管の仮差しをし、壁面金具の位置を決め、壁に目印をつけます。

③



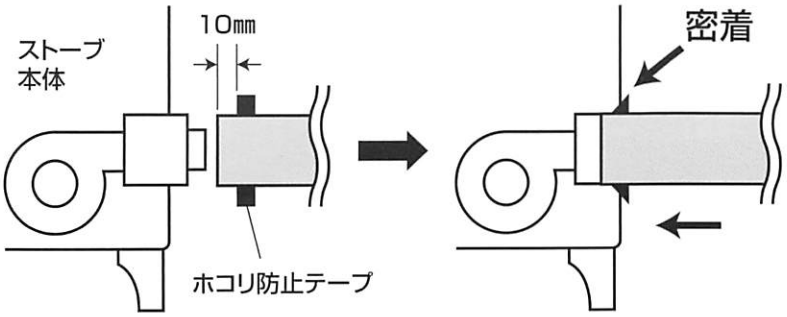
壁の目印に合わせて室内側の壁面金具をビスで固定します。
（壁の材質に適合したビスを使用します。）

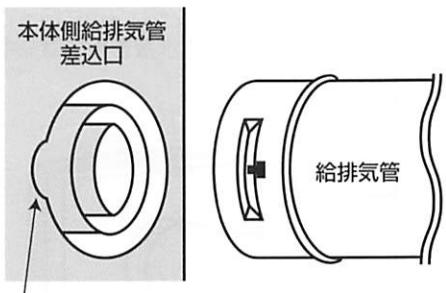
④



ストーブを設置位置に移動し、外からゆっくり配管を差し込みます。
（ストーブ本体には軽く差し、止めておきます。）

⑤



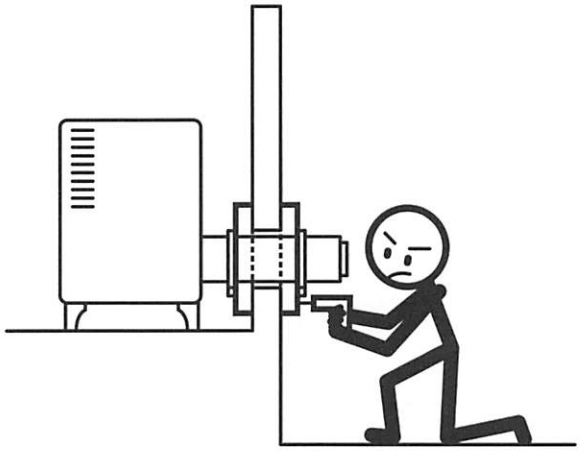


切り欠き部に給排気管ハズレ防止用コブを合わせてください。

ストーブ本体に配管を差し込みます。
※この時SSシリーズはホコリ防止テープを図のように貼付けます。

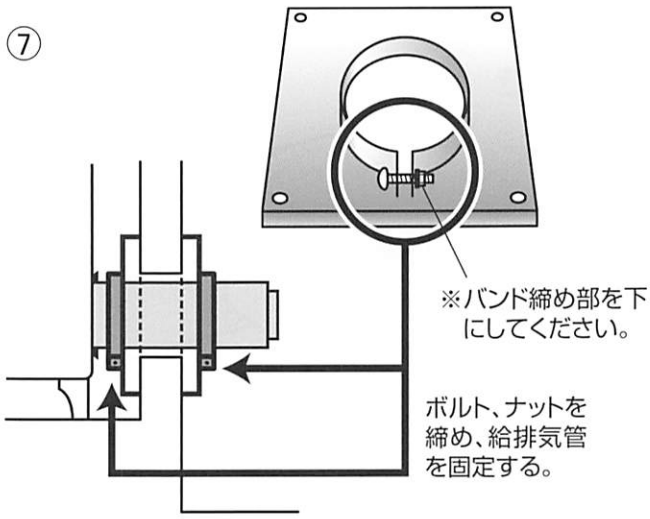
7.本体設置 給排気管取付手順

⑥



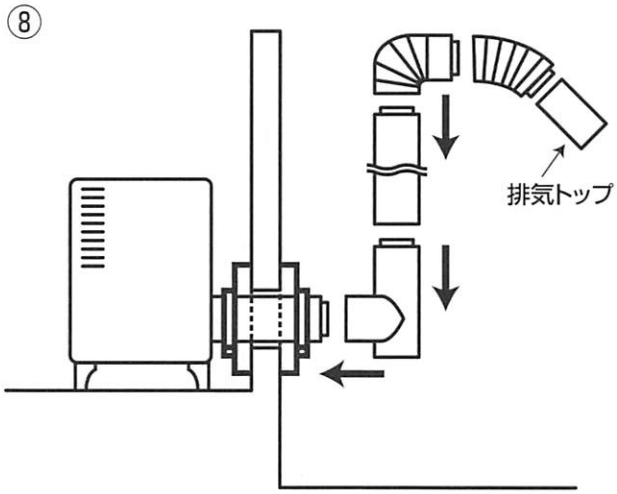
室外の壁面金具をビスで固定します。
（外壁の材質にあったビスを使用します。）

⑦



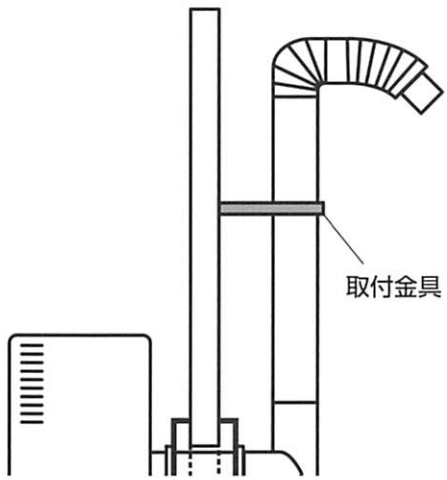
室内外の壁面金具の給排気管固定バンドのボルト、
ナットを締めます。

⑧



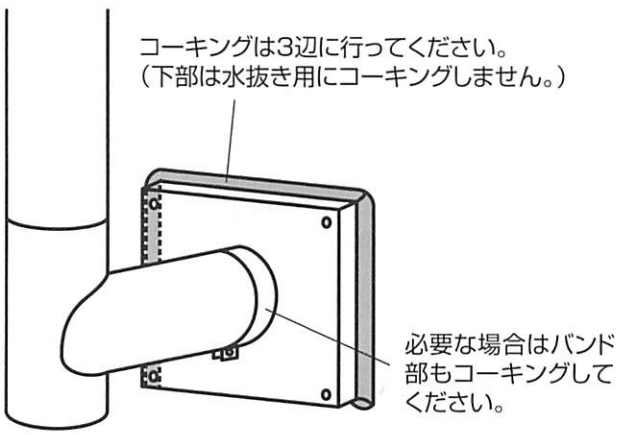
給排気管を立ち上げます。

⑨



取付金具で給排気管を壁に固定します。
取付金具のピッチの目安は1.5m～2.0mに1つで
しっかり固定されている事を確認します。

⑩



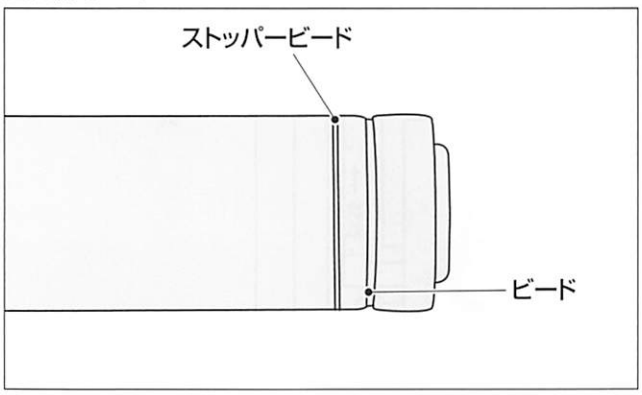
壁の内部に水が入らないようにコーキング処理をします。

給排気管取り付け･取り外しポイント

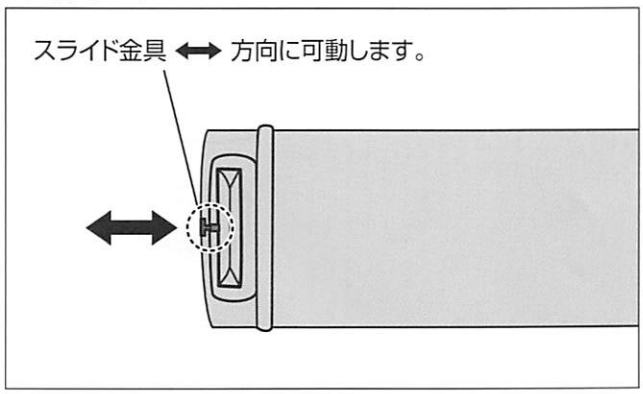
● ワンタッチ式ロック機構やフッ素Oリングを採用しており簡単に取り付け・取り外しができます。

各部の名称

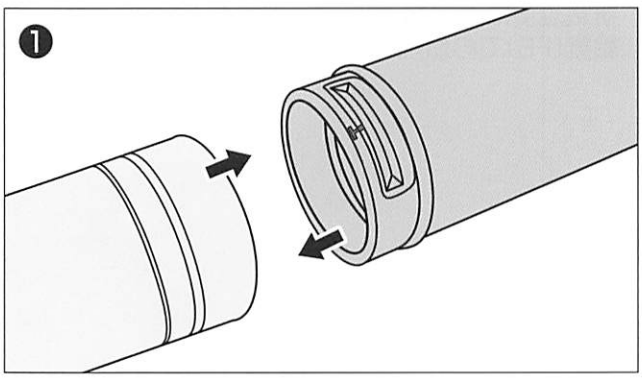
差込側（オス）



受口側（メス）



接続手順



差込み、受口側を確認し差込むだけです。リベット、コーキング等は不要です。

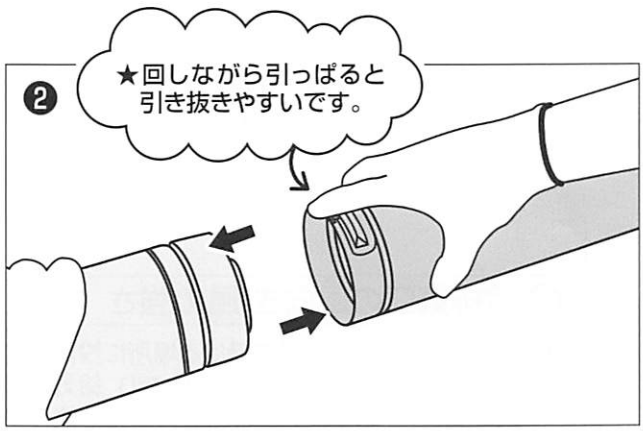


ストッパーはワンタッチ式ロック機構となっており、受口側をストッパービードまで差込むだけで確実に抜け防止機構が働きます。
（取り付け・取り外しの際は溶接線が上側になるように取り付けを行ってください）

解除手順



スライド金具を押え込みます。



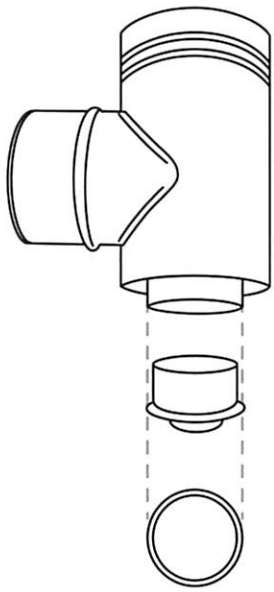
スライド金具を押え込んだ状態で真直ぐ引き抜きます。
（ワンタッチ式ロック機構は排気筒の向きに関係無く解除することができます）

※Oリングがついておりますので切断等の加工は一切しないでください。
※スライド金具はテープ等で固定をしないでください。

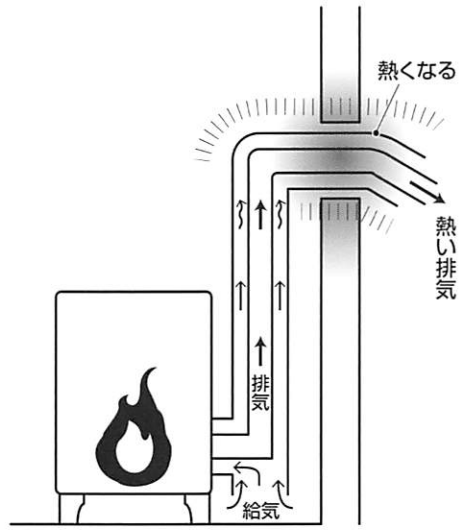
7.本体設置 給排気管取付手順

※必ず使用場所に応じたものをご使用ください。

室外用



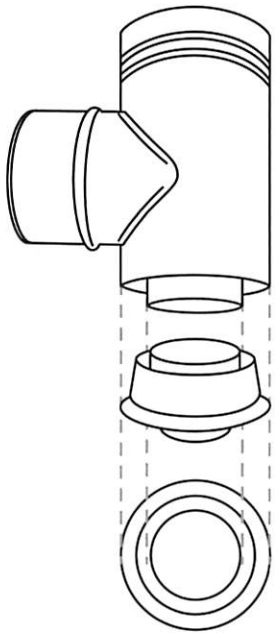
ふた 小



使用場所を間違えると…

❶室内立上げ時に室外用を使用すると、内側の排気温度により2重管の表面温度が上がり、室内給気(FE)での燃焼となります。

室内用



ふた 大

❷室外立上げ時に室内用を使用すると、雨水等がT字管に溜まり、本体･室内へ水が侵入します。

「横キャップT字管」もお選び頂けます。
配管を外さなくても排気ファン付近の掃除が可能です。

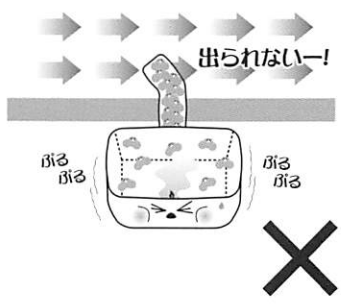
※屋外でのみ使用可能
※詳細は「給排気管部材一覧表」を参照

⃠ 給排気口の風向き･風の強さ

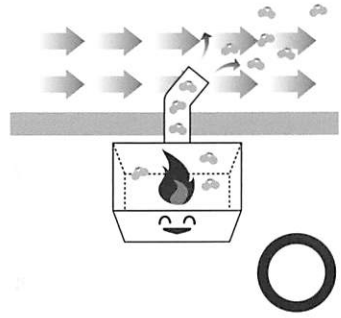
給排気口が強風または逆風を受ける場所に設置すると排気がスムーズに行われなかったり、給気が過多になることで内部が過熱したり、排気が燃料タンク内に侵入する危険があります。

●給排気口は「風下」に向けてください。
※その際に下からの吹きあげの可能性も確認してください。

出口が風の方に向いていると…

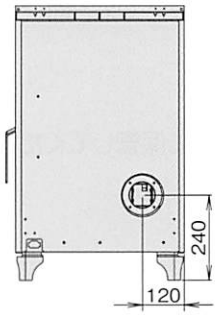


出口の向きを変えると…

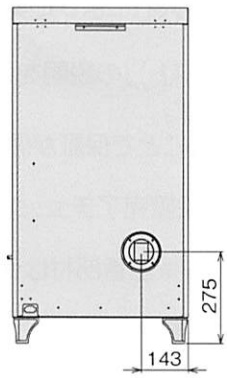


8. 給排気管の芯寸法

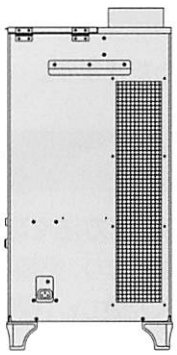
SS-5・SS-5 Plus

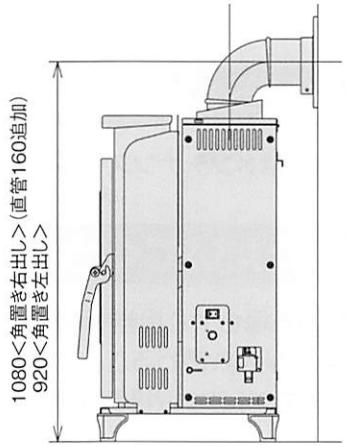


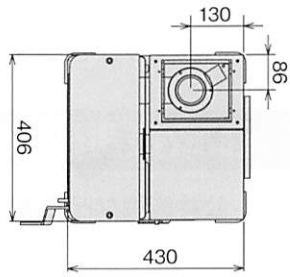
SS-10



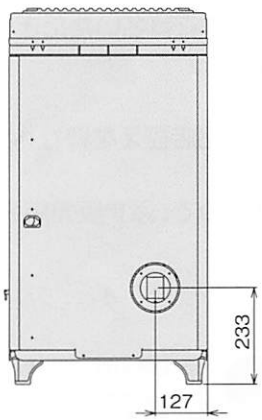
RS-mini



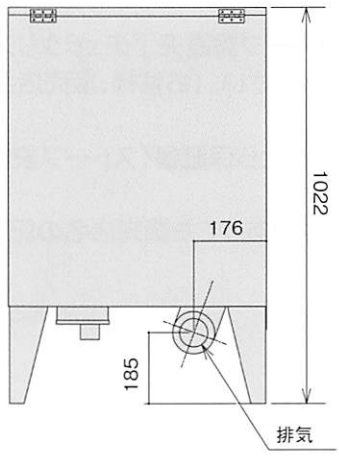




RS-4



DK-15



※本体組立方法は取扱説明書を参照ください。

9. 設置完了確認 保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)の記入と保管

3年間の製品保証

保証は「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」へのお客様の署名で発効となります。
本製品は、正しい設置工事と日常のお手入れによって安心してお使いいただけます。

■「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」の説明を必ず行い、該当する全てのチェック欄にチェックが入った状態でお客様のご署名をお願いします。
※該当する全ての欄にチェックが入ることで保証が開始します。

■ご署名いただいた「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」の控えは、大切に保管してください。

■保証期間は3年間(消耗品含む)です。※配管部材は保証対象外です。

■保証は日本国内においてのみ有効です。

■保証対象(無料修理)規定は取扱説明書裏面にございますので、必ずご確認ください。

❶ お客様登録のお願いを行ってください

お客様登録をしていただいたお客様にはメンテナンスや各種ご案内をさせていただきます。

❷ 取扱責任者を決めていただいてください(公共施設)

公共施設などで複数ユーザー様がいる場合やご担当者が頻繁に変わる場合、ご使用方法を忘れられ、誤った使用方法で使用されたり、ご担当者が入れ替わることによりお手入れがされなくなり、燃焼不良やトラブルをおこしてしまうおそれがありますので、必ず取扱責任者を決めていただいてください。(保証書に記入)

❸ 取扱説明書と保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)の説明と保管について

⚠ 取扱説明及び保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)の手続きが終わらないうちは、ストーブの使用を控えるようお願いしてください。

1)保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)にある該当する項目全ての説明をお客様に必ず行い、チェック欄にチェックを入れてください。

2)完了後、保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)のお客様欄にお客様よりご署名いただき、お客様へ保管のお願いをしてください。(お客様、販売店共に大切に保管してください。)

3)全ての記入が完了したら保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)の販売店控えを弊社へFAX報告をお願いします。
※チェック欄にチェックがあっても販売店名の記載がないと保証できませんので、必ず販売店名を記載してください。

日本の森を育てたい
SAIKAI
株式会社 さいかい産業
〒950-2264
新潟県新潟市西区みずき野2丁目12番9号
電話(025)239-1400 FAX(025)239-1401
www.saikai-sangyo.com